

## 開会のあいさつ

### 報告「越境地域政策研究の現状と展望」

川井 伸一氏（愛知大学学長）

戸田 敏行氏（愛知大学三遠南信地域連携研究センター長）

日 時：2017年1月28日（土）10：00～12：00

場 所：愛知大学豊橋校舎 記念会館 3F

**○司会**：ただいまより、愛知大学三遠南信地域連携研究センター主催、2016年度「越境地域政策研究フォーラム」を開催いたします。開催に先立ちまして、本学学長の川井伸一より、皆さまにごあいさついたします。

**○川井**：ご来場の皆さま、おはようございます。愛知大学の川井でございます。本日は、ご多用中のところ、セミナーにご出席していただきまして大変ありがとうございます。

チラシにもありますが、本年、2016年度は第4回の「越境地域政策研究フォーラム」ということでございます。2016年度ということで、特に指摘させていただきますと、今年度は愛知大学の創立70周年でございます。1946年11月、終戦直後と言ってもいいですが、この豊橋の地で愛知大学が創立されました。その創立の建学の精神の一つとしまして、地域の文化振興、地域の社会への貢献がうたわれております。以来、愛知大学は建学の精神を踏まえて、教育研究活動に取り組んできました。その一環として、2004年に、本センターの前身である三遠南信地域連携センターが創立されました。幸いに、その後、文部科学省の「共同利用・共同研究拠点プログラム」に採択されまして、こんにちに至っております。

このプログラムは、6年間というプログラムでございます。その意味で、愛知大学は、地域連携もしくは地域文化社会への貢献を重要な施策の柱の一つとしております。

近年、「地方創生」政策の下に、それぞれの地域の活性化、創生への取り組みがなされているかと思っております。この研究センターは、そうした政策との関わりが深い

わけですが、県境などの行政境界を跨いだ越境地域の振興という観点を打ち出しております。今回のセミナーでも、そのような観点から地域振興の在り方を検討いたします。

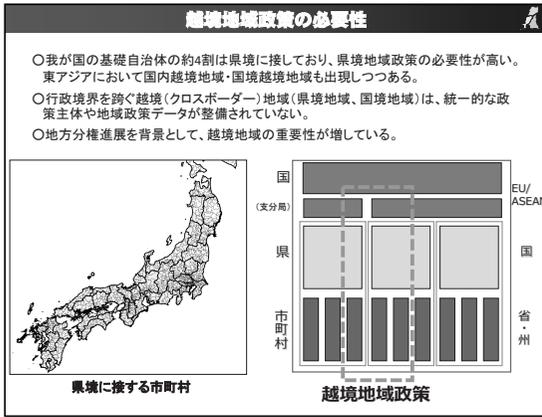
ポスターを見ますと、多様な内容であり、講演の方、報告者の方、そしてコメンテーターの先生方をあわせると35名前後になるということです。分科会では五つのテーマに分かれて、それぞれ議論を深化させるという積極的で、内容豊富なセミナーではないかと考えております。

本日は、学内の研究者はもとより、学外の研究者の方々、関係者の方々のご臨席を賜っております。記念講演の大島先生、それから基調講演の長谷川先生をはじめ各分科会でさまざまなテーマで報告される報告者の方々、コメンテーターの先生方に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げたいと思います。

このセミナーが、皆さまにとって実りある会となりますことを願いまして、私のあいさつに代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**○司会**：続きまして、当センターのセンター長である戸田敏行より「越境地域政策研究の現状と展望」として、当センターおよび本フォーラムについてご説明いたします。

**○戸田**：おはようございます。三遠南信地域連携研究センターの戸田と申します。「越境地域政策研究の現状と展望」につきまして、お手元のパワーポイント資料にもとづき、ご紹介を申し上げたいと思います。



スライド1. 越境地域政策の必要性

先ほど、学長からお話がありましたように、本センターは越境地域政策という行政境界を越える地域政策の在り方、地域への応用を研究しております。

越境地域政策とは何かということですが、図の右側に日本の地域構造を表記しています。国、県、市町村が階層的に設置されているわけです。このおのおのが地域空間ですけれども、その背後に制度があります。したがって、この制度の空間を越えて何かしようというのは、困難であるということになります。

左側を見ていただきますと、「EU」「ASEAN」「国」「省・州」があります。階層性は、国単位で見ても同じような構造にあります。行政の境界は、このような階層型地域の在り方を端的に表しているわけです。その行政の境界を跨ぐような地域を、「越境地域」と定義しています。こうした越境地域を設定することで、従来の階層型地域から離れた新しい政策の空間を設定することができます。一般的に「こう変えたいけれども、わかっているのだが、なかなか変えられない」という状況に対して、変容を提起する政策の空間、このような観点から越境地域政策を定義しております(スライド1)。

階層型地域は長い歴史を持っており、これを超えて新しい社会像を考えていくということが試みです。県境に限定いたしますと、日本地図に青色で塗ってあるところが県境に接している市町村です。これが市町村数で言いますと日本の4割になります。人口でも4割です。空間的な広がり、面積で言いますと65%になります。階層的な地域構造で見ると県境が壁となる基礎自治体が全国の半数近くあり、こうした対象の広がりから、越境地域政策にはさまざまなアプローチが必要であるということになります。

本日は、医療・福祉をテーマとしておりますが、先端的に高齢化する日本が直面しており、世界的にも非常に大きな課題です。これを越境という考え方で、どのように解いていくのかということが一つの方向性であると考えております。

さて、越境地域政策の研究を進めるうえで、当センターは文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」の認定を受けております。日本には多くの大学がありますが、ある専門性を持った大学の資源を、他の大学や研究機関が共同で活用しながら研究していくもので、本学は「越境地域政策研究拠点」として研究を行っております。

次にどのような研究をおこなっているかということですが、越境地域政策を進める障害として情報が境界で途切れています。そこで「越境情報プラットフォーム」をどのようにつくるかという研究がおこなわれます。そして、つながれた情報を社会に反映していく「越境地域モデル」、これらを政策化する「越境地域計画」の3つが研究コアです。そして研究に基づいて、人材を育成する人材育成部門を持っております。

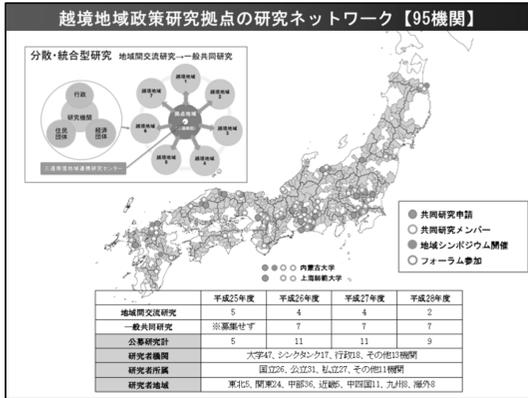
先ほど申しあげましたように、研究は一つの大学ではできないわけで、共同研究として全国的に公募研究をおこなっております(スライド2)。

午後の分科会発表では、公募研究の研究者の方々も多く発表していただくこととなっています。

同時に、本センターの旧来の研究対象である愛知・静岡・長野の県境地域、三遠南信地域での政策化に関する活動もおこなっています。



スライド2. 研究体制



スライド3. 越境地域政策研究拠点の研究ネットワーク

縦軸に三つの研究コア別の研究テーマ、縦軸に、ガバナンス、リスクの管理、産業、生活、情報といった研究分野をとって、個別研究をまとめています。現在、84 ぐらいの研究がなされています。これらから越境地域政策の理論化あるいは具現化に進んでいこうというプロセスを取っています（スライド4）。

## 共同研究(基盤研究、公募研究)の実施状況：一部重複あり

研究テーマ	研究分野	研究分野				
		ガバナンス(15)	リスク管理(18)	産業経済連携(22)	生活環境形成(15)	情報基盤形成(14)
計画コア (35)	越境地域政策におけるガバナンスの整理、越境による創発効果の顕明化	全国自治体の越境地域政策（全国：基盤）／全国超域連携協議（全国：基盤）／九州超境地域政策（九州：公募・基盤）／ブロッカーレベルの住民意識調査（関西：基盤）／超境地域と財政調整（全国：基盤）／超境地域政策比較（九州、三遠南信：公募）		海外の越境政策（モンゴ地域：基盤）／中国内モンゴル自治区を中心とする越境経済連携（中国内蒙古地域：公募）		
	地域維持と創発（生活）	NPO活動（九州：基盤）／行政評価手法と越境（上信越：公募）／中国山地の地域再生（中国地方：公募）		外国人高人材の就業支援（九州、韓国：公募）／産業経済連携（山陰・山陽：公募）		
	地域維持と創発（基盤）	北陸新幹線と地域連携（信越：公募）／	産業物管理（三遠南信：基盤）／濁りの水質汚染（三遠南信：公募）／越境医療体制整備（三遠南信：基盤）	高速交通網整備と企業取引（三遠南信：公募）／アートウェルシアとして地域特性（三遠南信：公募）	移住者と居住（三遠南信：基盤）／交通弱者対応（九州：公募）／小地区間交流（三遠南信：基盤）／地域外移住者ネットワーク（三遠南信：公募）／越境人材プラットフォーム（信越：公募）／文化の越境ネットワーク（三遠南信・九州：公募）／買物行動（三遠南信：基盤）	越境地域とメディア（新聞）（三遠南信：基盤）／越境と文学（三遠南信：基盤）／越境地域情報とケールテレビ（西尾部、岐阜：公募）／越境と歴史文化（三遠南信：公募）
モデルコア (30)	越境地域での経済・空間モデルの分析・形成	経済モデル構築		越境地域産業連携分析（三遠南信：公募・基盤）／自動車部品産業の産業転換経済波及（中部：基盤）／越境地域の空間経済分析（三遠南信：公募）		越境地域産業連携モデル構築（三遠南信：公募・基盤）
	空間モデル構築	越境地域と大型市町村（全国・九州：基盤・公募）／大都市圏政策（名古屋圏：基盤・公募）／流域景観づくり（西毛：公募）／黒地をまたぐ共生圏の創生（三遠南信・東海地域：公募）	大規模災害と後方支援（三遠南信・全国：基盤）／黒地を越えた復興支援（青森・岩手：基盤）／途上国産業政策（イラン：三遠南信：公募）／産業物管理（三遠南信：基盤）／濁りの水質汚染（三遠南信：公募）／シカによる越境被害（三遠南信：基盤）／環境学習拠点をづくり（鳥取・島根：公募）	プロスポーツ創生（三遠南信：基盤）／越境観光バス（三遠南信：基盤）／産業経済連携（北東北：公募）／地域間連携拠点としての小売業（全国、東海：基盤・有研）／乳産の越境性（中国・公募）／モンゴ地域経済（モンゴ地域：基盤）／越境地域の産業経済連携に関する研究（山陰・山陽：公募）	移住者と居住（三遠南信：基盤）／交通弱者対応（九州：公募）／小地区間交流（三遠南信：基盤）／地域外移住者ネットワーク（三遠南信：公募）／越境人材プラットフォーム（信越：公募）／文化の越境ネットワーク（三遠南信・九州：公募）／買物行動（三遠南信：基盤）	越境地域とメディア（新聞）（三遠南信：基盤）／越境と文学（三遠南信：基盤）／越境地域情報とケールテレビ（西尾部、岐阜：公募）／越境と歴史文化（三遠南信：公募）
情報コア (18)	境界で分断される地域情報の一元的活用手法の開発	産業データ整備		自動車部品産業転換の経済波及（中部：基盤）／自動車部品産業の空間経済分析（中部：基盤）／自動車部品サプライチェーンの空間分析（中部：基盤）／上海ICT産業転換の経済波及（中国：公募）／中国都市ネットワークにおける上海の影響力（中国：公募）		自動車部品企業個々のデジタルマーケティングシステムの構築（全国：基盤）／自動車部品サプライチェーンの開発（全国：基盤）／地方財政データベースの開発（全国：基盤）
	防災データ整備	防災データ整備	津波被害の空間解析（三遠南信：基盤）／自動車産業の災害リスク（中部：基盤）／東海町土砂災害の空間解析（三遠南信：基盤）／行政庁を越えた避難者の空間連携（三遠南信：基盤）／上海市の避難所配置（中国：公募）／中国沿岸部低地の産業リスク（中国：公募）／中国沿岸部低地の産業リスクに対する地域脆弱性の評価と対策検討（静岡・愛知：公募）		災害リスクデータベースの構築（三遠南信：基盤）／災害因子（地震・津波）、災害誘因（人口、社会インフラ、地域産業）と災害脆弱性（高齢者、中小企業、産業系サブライネーション）を中心に災害リスクデータベースの構築（三遠南信：基盤）	行政庁を越えた統計データの統合（愛知：基盤）／オープンデータと機械学習手法を用いた人口推計（三遠南信：基盤）

スライド4. 共同研究の実施状況

対象地域は三遠南信地域だけではありません。当センターでおこなっている一つのフィールドですが、九州の事例です。九州も各県に分かれておりますが、県境地域は中山間の生活が困難なエリアで、経済的にも困難な傾向を持っています。そこで全九州という視点から越境地域に関する調査研究、シンポジウムでの交流などをおこなっています（スライド5）。

共同研究で対象とする越境地域の分布ですが、全国の県境地域や広域的な地域を対象とするもの、海外では中国での「省境」という例もあります。現在、どの程度の研究ネットワークを作っているかということです。共同研究参画が約95機関になっております。日本地図を描いてありますが、北から南までに分布しています。共同研究機関は、各越境地域の大学であったり、行政やシンクタンクであったりします（スライド3）。

これを裏返しますと、全国的に地域政策を越境していこうという動き、越境に課題・可能性を見いだしているということであろうと考えています。



スライド 5. 越境から広域ブロックへ



スライド 7. SENA との連携協定締結



スライド 6. 人材育成



スライド 8. 長野県売木村うなぎ分室設置

次に人材育成ですが、中国との事例です。越境地域を形成していくためには、人材育成を進めることが有益で、双方の状況を理解しながら越境地域政策の担い手となる人材育成を試行しています（スライド6）。

最後に、越境地域政策の社会実験になります。「SENA」とは、人口230万人の三遠南信地域連携組織です。行政・経済から構成されていますが、昨年9月に本学と提携を結び、越境地域に関する地域政策の立案に関する共同研究や、人材育成、教育プログラムの開発を進めていこうということになっています（スライド7）。

また、そのために三遠南信地域で最も越境を必要とする中山間に、本年1月、分室を設置しました。越境地域政策の最前線になりますが、そうしたところから越境施策の具現化を試行しています（スライド8）。

例年、越境地域政策フォーラムは一つの主テーマを設定しますが、今回は「医療と福祉」としております。

記念講演といたしまして、長寿医療研究センターの名誉総長の大島先生から、我が国の医療・福祉の状況を踏まえて「医療・福祉のまちづくり提案」の講演をいただきます。続いて、長谷川先生からは「高齢社会の新しいまちづくりと医療・福祉のあり方」として、斬新なお考えを提示していただきたいと願っています。また、医療・福祉につきましては、この基調講演と記念講演だけで完結することはできませんので、第4分科会で「越境地域と医療・福祉」について議論を続けていただくことになっています。

そのほかに四つの分科会を持ちます。第1分科会は「越境地域とガバナンス」で、地域経営に関する研究の報告です。第2分科会は「越境地域と空間情報」で、境界で消えていく情報をどのようにつかいでいくかと

いうこととなります。第3分科会は「越境地域と産業・経済」で産業経済の視点、第5分科会で、歴史的な観点から「越境地域と歴史・文化」での議論を展開いたします。

本日のフォーラムをご活用いただきまして、越境地域政策に対する関心を高めていただくとともに、さまざまなご意見、ご提案をいただければ誠にありがたいと思います。

以上、「越境地域政策研究の現状と展望」に関する報告をさせていただきました。

(以上)